

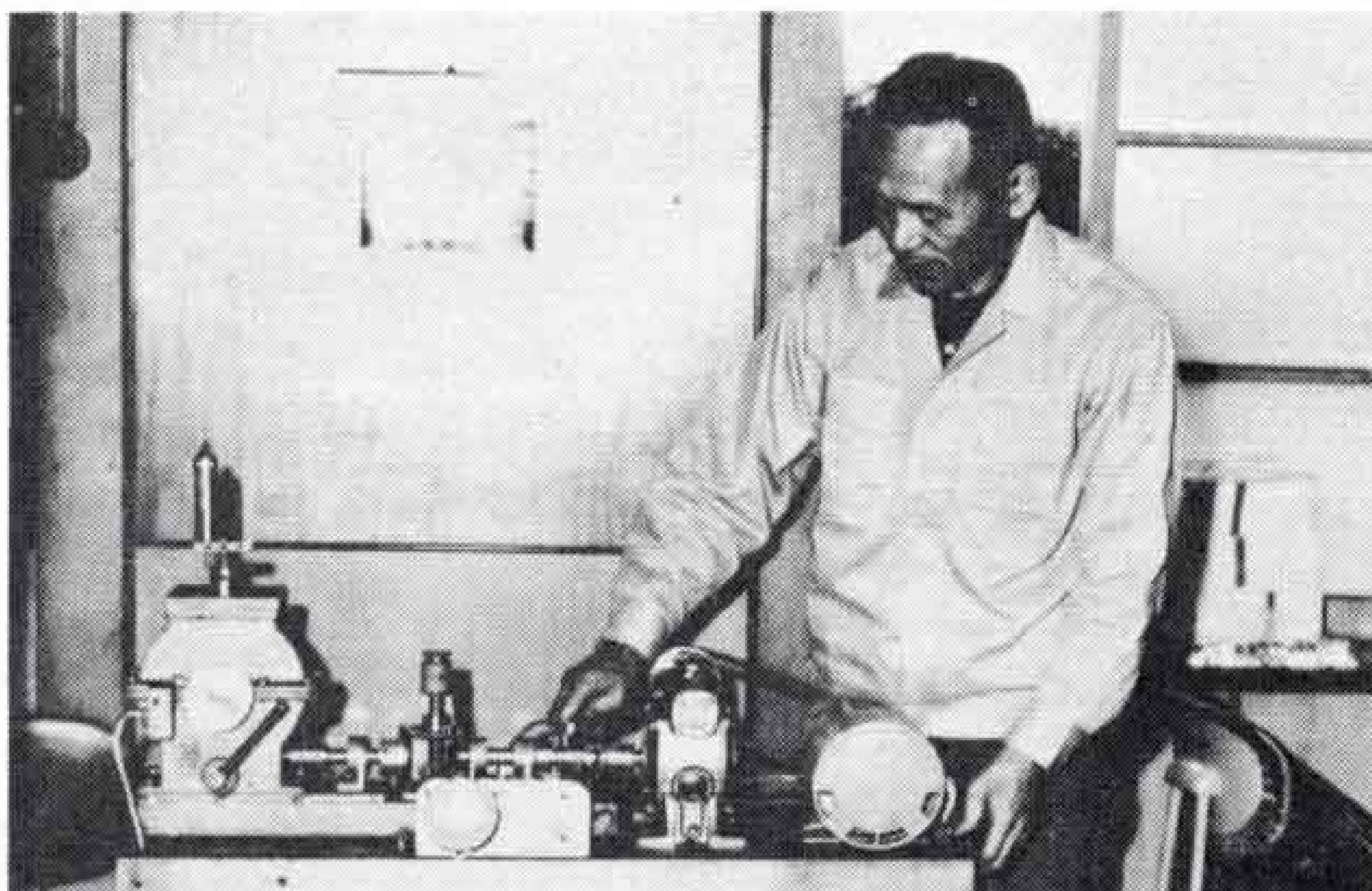


■ 故船山翁の胸像除幕

♪ 田子の浦港修築の父♪ 故船山啓治郎翁の胸像除幕式が、5月30日、田子の浦港西岸で行なわれました。

船山翁は、昭和22年田子浦村長に就任。当時から岳南地区の発展をはかるには田子の浦港の修築を行なう必要があると、昭和24年に「田子の浦港修築期成同盟会」をつくり、地元はもとより、県、国へ呼びかけてきました。その努力が実のつて、現在の国際貿易港田子の浦港の建設となつたものです。

しかし、翁は田子の浦港の建設をみることなく、昭和31年5月30日に74歳で死去されました。



■ 発明工夫で3氏が受賞

職場で品質の向上、生産能率の向上をはかる創意工夫をした臼井誠一さん（依田原・会社社長）、勝俣始さん（中島新道町・洋服業）、勝又忠一さん（久沢・建設業）が県産業技術協会と発明協会静岡支部から、職域創意工夫功労者として表彰されました。臼井さんは紙の自動枚数計測機、勝俣さんはキリピンケアンドシツケ器、勝又さんは大工足場取付具をくろふしたものです。<写真は臼井さんと自動枚数計測機>



■ 生活学校が開講

吉原生活学校の開講式が5月29日に、吉原市民会館で行なわれました。

生活学校は、明るい家庭 明るい社会をつくるためのお母さんたちの勉強会。

お母さんたちは「聞いて見て、話し合つて、おおいに見聞を広めていきたい」と大張り切りでした。

(衣) 白さがめだつ季節になりました。合着から夏物へ。もうすつかりころもがえのすんだことでしょうか、合着の始末は案外おつくうなものです。しかし、雨季に入つてからの始末ではおそすぎます。防虫剤や乾燥剤を入れて早目にタンスや整理箱にしまいましょう。また、スリツパなども厚手のものは、わずらわしくなる季節です。サラリとしたサランやパナマものなど取りかえてはいかがですか。

(食) 初夏の味覚をそそる野菜類が豊富に出回ります。そら豆、キュウリ、トマト、ナス、新白菜、セロリなどをこのみに応じて、つけ物にしたり、生でサラダにして食べるのも楽しみなものです。くだものは桜桃、びわなどがあります。フルーツポンチ式にくふうすると、こどもさんは大喜びすることでしょう。ただ、注意したいことは食べ物がくさりやすいこと。食中毒には十分注意してください。

(住) ふだん開けたてに手間どる戸やしようじなどは、雨季になると湿気で動かなくなる場合があります。いまのうちにすべりをよくしておきましょう。ただし動かないからといって、けずりすぎないように……。家の回りの排水こうのゴミはよくさらつておきましょう。また、家のまわりを見まわつて低いところには土盛りをして、大雨がきても床下に水が流れこまないように、準備をしておいてください。